

研究基盤 EXPO 2022 第 2 回研究基盤イノベーション分科会シンポジウム
「若手技術職員&若手文科省職員での政策対話」
「研究基盤についての座談会」

令和 4 年 1 月 28 日(金)に開催された第 2 回研究基盤イノベーション分科会シンポジウムにおいて、大学・文科省の若手企画「若手技術職員&若手文科省職員での政策対話」および研究基盤 Cross Talks: IRIS×若手×ゲスト「研究基盤についての座談会」に、大阪大学部局横断型女性技術職員ネットワークの技術職員 2 名が参加しました。本イベントは Zoom にてオンラインで開催され、253 名の方にご覧頂きました。

「若手技術職員&若手文科省職員での政策対話」には植原邦佳技術職員(接合科学研究所)、江口奈緒技術職員(科学機器リノベーション・工作支援センター)の 2 名が登壇しました。本セッションは全国の若手技術職員 7 名、文部科学省若手職員 4 名の 11 名により、「研究力を向上するために何が必要なのか」をテーマに研究環境と人材の側面から議論を行いました。その中で、技術職員の見える化のためのネットワーク・データベースの必要性について議論が及び、女性技術職員ネットワークの取組を紹介しました。大学の研究力強化や技術職員の働く環境について活発に議論を行うことができ、技術職員の意義について改めて深く考えるよい機会となりました。

「研究基盤についての座談会」には江口奈緒技術職員が登壇いたしました。本セッションには IRIS から 3 名、文部科学省から 3 名、若手から 4 名(うち 1 名は文科省職員、3 名は技術職員)がにより、研究基盤についてエビデンスを用いた議論が行われました。その中でも研究を支援する人材について、また研究支援人材のネットワークやデータベースについて言及があり、その必要性や重要性が認識されることとなりました。

今回のように様々なステークホルダーが意見を交わし合うことで、議論をより多角的に発展させることができ、非常に有意義な機会となりました。



「若手技術職員&若手文科省職員での政策対話」のセッションの様子

イベント報告



「研究基盤についての座談会」のセッションの様子